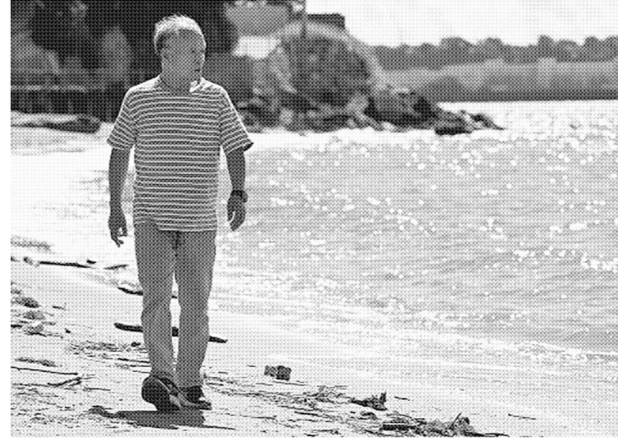


「最初から老人ホームと聞かされていたら、見学にすら行かなかったかもしれない」。昨年末から三浦半島の海辺にある有料老人ホーム「マゼラン湘南佐島」(神奈川県横須賀市)で暮らす田所明(73)は振り返る。

金融関係の仕事をして60歳で定年退職、関連会社に1年勤務後はスポーツジムに通い、週4〜5日通う健康的な生活を送っていた。持病の不整脈で救急搬送や手術が重なり、老人ホームの新聞広告を切り抜くようになってはいたが「体が動かなくなってきたら考えよう」。実際の入居はまだ先のことだと思っていた。

「介護予防に取り組む施設がある」。そんな田所を案じた姪(めい)の誘いで見学に訪れたのが今の施設。「人に迷惑をかけるように生きてきた。倒れてからは迷惑をかける」。富士山と相模湾を望む立地もあり「終活を始めるつもり

「倒れてからは迷惑」



健康型有料老人ホーム「マゼラン湘南佐島」前の海岸を散策する入居者の田所さん(神奈川県横須賀市)

で」入居を即決した。日課のラジオ体操やエクササイズに加え、週1回のパーソナルトレーニング。「金融関係の仕事で長年肩掛けかばんを使い、姿勢が傾いていたが、最近はずっとすくなくなってきた」。

マゼラン湘南佐島は全国でも数少ない「健康型」老人ホーム。要介護認定を受けた人は入居できず、入居者が認定を受けるとして現実的な検討課題

「高年齢による衰弱」(13・3%)など徐々に進行するものだけでなく「脳血管疾患(脳卒中)」(15・0%)「骨折・転倒」(13・0%)など突発的なものも目立つ。

高齢者施設検索サイト「LIFULL介護」による施設入居予定者の家族を対象とした調査では、入居前の自宅での介護期間は「ない」が15・4%に達し、要介護2以下での入居が54・6%と半数を超えた。「体が動かなくなってきたから」の施設探しでは、後手に回りかねないのが実情だ。

24時間体制の日常的な介護サービスが付く「介護付き」は要介護認定が入居条件の「介護専用型」だけでなく、自立した生活を送れる人も対象とした「入居時自立・要介護型」がある。原則要介護3以上が条件となる特別養護老人ホーム(特養)より健康面での間口は広くなる。

健康面の備えとともに重要なのが経済面の備えだ。全国の有料老人ホームの初期費用の相場(LIFULL介護まとめ・中央値)は600万円台。東京は900万円台、兵庫や京都は1000万円を超える。

老人ホームの料金は「前払い金(入居一時金)」「月額費用」の2本建て。前払い金のない施設もあるが、前払い金が多ければ相対的に月額費用は抑えられる。

介護施設に詳しいファイナンシャルプランナーの岡本典子によると「介護型の場合、前払い金の有無でも上下するが、要介護になれば家賃を含む月額費用の相場は20万〜35万円程度」。年金だけで賄い続けるのは難しい水準で、貯金など資産の取り崩しも前提になる。

ただ介護職も社会問題化するなか、費用と家族の負担のバランスを考えると、施設入居は合理的な選択肢の一つになってくる。終活アドバイザーの資格も持つ岡本は「入居時自立型」に入居した親世代から「子供孝行」との言葉を聞くこともある。親のためか子のためか。決断を先延ばしにすればするほど、選択肢は狭まる。

◇ 人口動態調査によると、22年の死亡場所別では老人ホームが1割を超え(11%)、自宅(17%)に迫る。「終のすみか率」が高まる老人ホームの「現実」を探る。(敬称略)